



発行: 日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人: 山口一樹 編集人: 谷本 寛
住所: 〒680-0847 鳥取市天神町30-5
TEL (0857) 26-6605 FAX (0857) 26-6615
E-mail: tottori@tottori.jtuc-rengo.jp
ホームページ: https://jtuc-tottori.jp

2025 春季生活闘争スタート!

— 「春季生活闘争開始宣言集会」を開催 —



団結して
がんばろう!



上段左から/山口一樹会長 河村正之事務局長
下段左から/谷村麻由美委員長 米花大地書記長

事例報告では、U Aゼンセン・米子高島屋労働組合の谷村麻由美委員長と、私鉄総連・日ノ丸自動車支部の米花大地書記長から「2024 春闘の取り組み」を紹介していただき、質疑・応答の後、「闘争開始宣言(案)」を全国農団労・J A鳥取いなば農協労働組合の大橋良輔委員長が提案し、満場一致で採択されました。

最後に、山口会長の「団結がんばろう」で締めくくり、2025 春季生活闘争がスタートしました。

連合鳥取は、2月1日(土)、「2025 春季生活闘争開始宣言集会」を倉吉体育文化会館で開催しました。集会には、構成組織・産別・単組から193人(女性37人・女性参画率: 19.1%)が参加しました。



電機連合

オムロンリレーアンドデバイス労組
戸羽 弘樹さん



2025 春季生活闘争では、経済状況や物価の変動、労働市場の動向などによって、多くの組合がどのような要求を行うか注目されている。山口会長のあいさつや河村事務局長の方針提起にあったように我々連合鳥取が牽引役となり「働くことを軸とする安心社会の実現」に向け共通目標を掲げ取り組むことが重要であると再認識した。

事例報告では取り組みや苦労話も聞くことができ大変参考になった。

生活基盤の向上に向け連合鳥取が一致団結することで波及効果を生み、賃上げがあたりまえの社会をめざし、ともにがんばりましょう!

フード連合

大山乳業農業協同組合労働組合
平野 誠さん



春闘方針説明で地域間での賃金格差について触れたとき、鳥取県の平均賃金が全国の平均賃金より50,000円以上も低いという調査結果が強く印象に残った。その上、「平均値と比べて」という事はよほど現状の鳥取県の平均賃金は低く、平均賃金の高い地域と比べるとさらに格差があるという事実で落胆した。

ほんやりと都会の方が物価や賃金は高いという認識は持っていたが、実際に数値化すると自分の置かれている現状に気づかされた。今まで以上に格差は正を訴え、変えていかなければならないと思ったのと同時に、この格差の大きさをもっと周知して仲間を増やし、大勢で団結していかなければならないと思った。

Action!
36

3月6日は

「36(サブロク)の日」



3月8日は

「3.8国際女性デー」



3
ページも
みてね!

2025春季生活闘争特集

経営者協会との意見交換会を実施

2月10日(月)、連合鳥取から山口一樹会長他7人、経営者協会から平井耕司会長他7人が出席し、鳥取シティホテル(鳥取市)において「鳥取県経営者協会・連合鳥取意見交換会」を開催しました。

【連合鳥取発言(要旨)】 物価上昇に対応するため、基本給の「ベースアップ」を3%以上、年齢や勤続年数に応じた「定期昇給」を2%の他、全国平均と比較した県内の賃金水準や企業規模による格差の是正分1%を加え、あわせて6%以上、月額14,700円以上の賃上げが必要と考えている。



左から／
山崎副会長、北畑仁史副会長、山口一樹会長、
細砂直副会長、松本善樹樹事務局長、河村正之事務局長

中小企業を中心に経営が厳しくなっているとのことだが、良いものにはそれなりの値がつくことを浸透させ、労働者側として当たり前の賃上げとなるよう継続して訴えたい。

【経営者協会発言(要旨)】 賃金の急激な上昇は企業経営の圧迫につながる一方、中小企業の賃上げなくしては日本経済の成長はない。原材料だけでなく、労務費を含めた適正な価格転嫁を行うことが重要だ。賃上げ、人材の確保、価格転嫁など、経営が厳しい中小企業が事業を継続できるよう労使で協力していきたい。



安心して働ける雇用を、すべての人に！ ～みんなの力で職場を改善しよう～

ー連合全国一斉集中 労働相談ホットライン実施ー

年度末が近づき、契約打ち切りなどが懸念される時期を前に、全国の地方連合会が2月13日(木)、14日(金)にフリーダイヤル【0120-154-052】で労働相談を受けつけました。

今回はNHK鳥取放送局の取材も入り、河村正之事務局長が「最近ではハラスメントの相談が多く、上司だけでなく同僚、後輩から嫌がらせを受けるケースも増えている。相談者の問題解決に向けてはもちろんだが、その職場の環境改善に向けてアドバイスを行っている。労働組合があると解決できることも多いので『組合づくり』につなげていきたい。安心して働き続けるために、まずは勇気を出して相談を寄せてほしい」と訴えました。

連合鳥取では産別からの応援者2人と吉田正相談員、専従役員が相談に対応し、1年更新の契約社員などから4件の相談が寄せられました。



春闘方針浸透を図る

ー各地域協議会「単組代表者会議」を開催ー

連合鳥取「2025春季生活闘争方針」の浸透を目的に、地域協議会主催の「単組代表者会議」を開催しました。各会場では、連合鳥取役員が春闘方針を解説し、続いて、各地域協議会の事務局長が今後の取り組み内容やスケジュール等について具体的に説明しました。



春闘方針を提起する
河村正之事務局長

東部地協

2月20日(木)

80人参加／さざんか会館



写真上／湖山実議長代行



中部地協

2月18日(火)

36人参加／倉吉体育文化会館



写真上／盛山修議長代行



西部地協

2月19日(水)

47人参加／米子コンベンションセンター



写真左上／
木村幸宏議長



伯耆町議会議員選挙 推薦決定

連合鳥取は、「第3回執行委員会(2月13日開催)」において、伯耆町議会議員選挙(4月15日告示・4月20日投開票)に下記の予定候補者を推薦することを決定しました。

組合員のみなさまのご支援、ご家族、ご友人、知人のみなさまへのご周知をよろしくお願いします。

おおもりのえいいち
大森 英一 (69歳/現6期/立憲民主党・部落解放同盟)



中部地協発

産別・単組との連携強化で安心・安全な社会をめざす

一倉吉市長に「2025年度政策・制度要求書」を手交

中部地域協議会は、2月3日(月)、盛山修議長代行、前田尚希副議長、寺田真里事務局長、連合鳥取推薦議員の福井康夫倉吉市議会議員が倉吉市役所本庁舎に出向き、広田一恭市長へ「2025年度政策・制度要求書」を提出しました。

この要求書は、昨年11月に開催した「連合鳥取推薦議員との意見交換会」での意見を基にまとめ、福井市議会議員からアドバイスを得て作成しました。

広田市長とは限られた時間の中ではありましたが、各項目について意見を交わすことができました。

その後、倉吉市から2月6日(木)付で、それぞれの課題に対して前向きに実施している現状および今後の取り組み予定についての回答がありました。



広田市長に要求書を手交する
盛山議長代行(右)



左から/福井議員 広田市長
盛山議長代行 前田副議長

【要請・回答内容(抜粋)】

1. 雇用・労働政策／保育士不足の問題解決のため、保育士の働きやすさと満足度を向上させ、保育士不足の解消に寄与されたい。
2. 国土・土地・住宅政策／老朽化した空き家の所有者に対して解体や修繕を促すなど、地域の防災・減災対策を強化し、安全で安心な環境を実現することを検討されたい。
3. 交通政策／市街地の除雪方法について、重要な課題となっている歩道確保のために排泄除雪などの方法を検討されたい。
4. 教育政策／保護者の経済負担軽減のため、給食費の公費・財政的支援を図られたい。

⇒
回答

保育士の業務負担の軽減を行い、保育所統合による職場環境の改善などで、保育士の確保、保育士不足解消に努めていく。

空き家総合サービスなどを活用し、空き家の「発生抑制」「利活用」「適正管理」「除却」など地域の安全を実現できるよう努める。

市道沿いの歩道除雪には様々な制度を活用し、各地域で対応していただいている。県道沿いの歩道については鳥取県と連携、情報共有を図っていきたい。

倉吉市の学校給食費は平成26年度以降改定していない。今後も保護者負担が増えない取組を継続するよう検討している。

西部地協発

2025年度
スローガン

いま声を重ねて、より良い労働環境を築こう

～誰も取り残されない社会を目指して～

一青女フォーラム「第11回定期委員会」を開催

連合鳥取西部地協青女フォーラムは、2月21日(金)、米子コンベンションセンターにおいて、「第11回定期委員会」を開催し、昨年1年間の活動の振り返りと向こう1年間の活動方針、新年度役員を満場一致で決定しました。



森本和奏委員長あいさつ



団結がんばろう!

若手組合員の他産別間の交流を深めることを目的として、青女フォーラムの活動強化を宣言し、委員長の「団結がんばろう!」で締めくくりました。

今後もスローガンにそって活動を行います。

(寄稿/
青女フォーラム
前事務長
山根 賢志さん)

役職名	名 前	組 織 名
委 員 長	本田 凱(新)	全水道
副 委 員 長	平林 天佑 齋木 大輔(新)	JAM 全国ガス
事 務 長	岡本 湧生(新)	自治労
常 任 委 員	8人(JR連合・UAゼンセン・紙パ連合・JIP労組・運輸労連・電力総連・全労金・全国農団労)	

3月6日は「36(サブロク)の日」

長時間労働を是正し、すべての職場でより良い働き方を実現するために、2018年に連合が制定。

労働基準法第36条「時間外・休日労働に関する協定」、いわゆる「36(サブロク)協定」にちなんでこの日を記念日として正式登録した。

そもそも36協定とは?

残業させる場合や、法定休日に労働させる場合には、あらかじめ労使で書面による協定を締結し、これを労働基準監督署に届け出ることが必要。

このルールが労働基準法第36条に定められていることから、通称「36(サブロク)協定」という。

3.8国際女性デー

3.8国際女性デーとは?

1857年にニューヨークの被服工場の火災で多くの女性たちが亡くなったことを受け、3月8日に女性たちが低賃金・長時間労働に抗議を行ったことが「3.8国際女性デー」の起源といわれている。

その後、1908年3月8日に、女性労働者たちが賃金改善と労働時間短縮、婦人参政権を求めて「パンとバラ」を掲げ、デモを行った。

以来、この日は「女性の政治的自由と平等のために行動する記念日」と位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳・人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、世界各国で様々な行動が展開されている。

連合は、1996年から春季生活闘争の中に国際女性デーの行動を位置づけ、全国で統一行動を実施している。





湯原 俊二 — 緑肥の想い —

国民の暮らしを守る予算に。

政治は、国民の暮らしを守るものでなければなりません。国民の暮らしより多額の献金をもらう企業の利益を優先したり、選挙目当ての実態の伴わないキャッチフレーズや見栄えさえよければいいという政治では、国民の暮らしは良くなりません。

今、通常国会では来年度予算案が審議されていますが、過去最大の115兆円、しかし水ぶくれ予算案で、あちらこちらに無駄が散見されています。予備費や基金の見直しで3.8兆円捻出できます。こうした無駄を削減し、その財源で国民の暮らしを守るところに優先して支出すべきです。ガソリン・軽油価格の引き下げ、学校給食の無償化、高校無償化、介護・障害福祉・保育士・幼稚園教諭の賃金アップ、130万円の壁対策、中小零細企業の社会保険料の負担軽減、高額医療制度の負担見直し等です。

少数与党政権での国会審議、野党の提案にご関心をもって注視してください。

湯原さんのホームページもご覧ください

湯原 俊二 検索

二次元コードから
もつながります▶



連合鳥取
「2025 新春のつどい」で訴える
(2025.1.17)



雪の中の辻立ち
(2025.2.7)

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

第96回鳥取県メーデー大会

《スローガン》

次代につなぐ 平和の願い！
みんなでつくろう あした
支え合う安心社会と確かな未来を！

開催日 2025年4月26日(土)

開催地 県内3会場

- ・中央大会(=西部)
- ・東部地域大会
- ・中部地域大会

※現在、各地域協議会を中心に開催方法・内容等企画中。決定次第、ご案内します。

募集！「ワークルールクイズ」に参加しよう！

- ★産別を通じて「問題」を配布します。
設問は5問(「ワークルール検定」問題より引用)
- ★メーデー大会当日に応募箱に投函してください。
- ★後日、採点し、5問すべての正解者の中から、抽選で300人に産別を介して賞品を渡します。

「フードライブ」「エコキャップ回収」にご協力ください

当日、会場にお持ちください。
— 詳しくは各地域協議会からご案内します —



“ザ・議員”

おき はる ひで お 興治 英夫 鳥取県議会議員

人材確保へ奨学金の拡充実現。
昨年の私の取り組みの一端をご紹介します。

1. 保育人材確保のための奨学金の拡充実現

保育人材が不足するとともに、全国的に幼児教育保育学科を志す学生が減っている中、県の保育士確保の奨学金が実情に合わなくなっていました。昨年の2月県議会でその制度改正拡充を求め、実現しました。貸付は月額5万円、入学・就職準備金20万円ずつ。世帯の所得要件の拡大。返還免除要件は県内の保育施設等で3年間勤務などとなり、令和7年度入学生から適用です。

2. 教員確保の奨学金返還補助制度開始

不足する教員を確保するため、6月の知事要望で提案していた教員の県内就職奨学金返還補助制度が、令和8年度採用者から始まります。あわせて返還補助の対象が、公務員を除く全業種に拡大されます。補助率最大1/2で、補助上限が大卒144万円、専門学校卒72万円などです。就職後8年間にわたって交付されます。



おき はる 英夫 県政報告会の様子

なか だ とし ゆき 中田 利幸 米子市議会議員

昨年は能登半島地震から始まり、この間、国内政治も大きな変化が生じ、やっと議会制民主主義が機能し始めました。

私はこれまで、働く者、生活者の視点から、人口減少と高齢化の中で、生活基盤となる都市構造や経済・雇用環境、次世代の育成環境をテーマに活動して参りました。

高齢社会での移動効率の良い都市構造へ交通結節点と公共交通を基盤としたまちづくりをめざし、米子駅南北のバリアフリー化(がいのロード)に引き続き、交通結節点機能の充実をめざしたいと考えております。

また、持続可能な地域経済の活性化と雇用確保のための効果的な施策や、次世代への優しさを感じさせる生活基盤をめざしたいと思います。

引続きのご指導をお願い申し上げます。



JR西労組議員団会議「政策勉強会」(2024.12.26)前列中央が中田議員

気づけば令和も早7年目。様々な事が目まぐるしく変化する時代の中、DX・デジタル社会に食らいついていくのも必死な年齢になってきたとつくづく感じる▼労働生産年齢人口が減少していく中で、もはや切迫しては切り離せない「人材確保」というワード。そのような中、定着についてよく考えさせられる▼若年層や中堅層を中心になかなか定着も進まない中、離職理由も様々あり、定着率向上へ向けて解決をめざすも課題は山積▼しかし、今の時代、人はどこまで本音を語り、どこまで本気でぶつかってきてくれるか▼人類はコロナ禍を経て、新たな発想も生んだが、その中でコミュニケーションについてみなさんはどう感じているだろうか。接し方・話し方・関わり方、人それぞれだと思いが、現代のコミュニケーションの取り方に労働組合としてどう踏み込んでいくか▼人材育成も労働運動も「距離」があることで誰一人取り残してはならない。「花には水を、人には愛を、労働組合は心を」。



(砂丘の釣り人)

てんてんてんてん



再生紙を使用しています